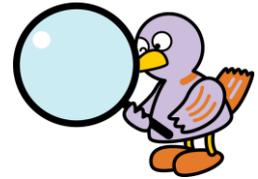


やって納得！情報の探しかた講座

②これでバッチリ！

事典の使いかた



埼玉県のマスコットコバトン

(平成27年9月作成)

埼玉県立熊谷図書館 TEL048-523-6291 FAX048-523-6468

<https://www.lib.pref.saitama.jp/> (埼玉県立図書館のホームページ)

テーマについて

みなさんは、図書館で資料を探するとき、どのような探し方をしていますか？図書館内の端末で知りたい内容を入れてみて、「結果が0件か…じゃあ、ないな」で終わったりしてはいませんか？

図書館での調べ物の第一歩は、実は辞典／事典類(以下、「辞典類」と呼びます。)に当たることです。学校を出てからは頻繁に使うことはないかもしれませんが、辞典類を使いこなすことは情報を探す上で非常に重要な技術なのです。

ただ、辞典類の使い方にはちょっとしたコツがあります。これを知ることによって、今まで見つけられなかった情報が分かるかもしれません。今回は「これでバッチリ！事典の使いかた」として、基本的な辞典類とその使い方をご紹介します。

参考図書:いろいろな「じてん」

辞典類について説明する前に、まずいろいろな「じてん」の区別を知っておきましょう。一口に「じてん」と言っても、実はその内容は微妙に異なっているのです。

辞典【dictionary】:文字または語を集めて一定の順序に従って整理・排列し、その読み方・意義・語源・品詞名・表記法・用法(例)または熟語などを説明したもの。辞書に同じ。

事典【encyclopedia】:事柄を集めてその一つ一つに解説をほどこした書物。辞典・字典とは一応区別して使われる。事典はことばの解説(辞典の要素)のほかに、事物の起源・由緒・来歴まで加えて解説したものを、内容の説明に便利な順で収めたものである。百科事典・歴史事典・人名事典等がある。

字典【dictionary】:文字について説明した書物。たとえば漢字を集めて偏や旁(つくり)、画数などにより一定の順序に並べ、漢字の形状、出来方、由来、読み方、意味、用例などを解説した書物。字書・字引と同じ意味にも用いる。くずし字字典・漢和字典・漢字書き順字典などがある。

(図書館問題研究会編『図書館用語辞典』角川書店 1982より)

こうした辞典類は、図書館では「参考図書」と呼ばれます。図書館で扱う参考図書には、上記のような「辞典」「事典」などのタイトルがついていないけれど、実際の内容としてはそれらと同種類の調査用資料もたくさん含まれています。そうした資料を図書館で見つけ出すためには、単に蔵書検索で「辞典」とか「事典」とか入力して検索してみるだけではダメで、もう一歩踏み込んだ探し方が必要になってくるのです。

百科事典で調べる ～ とりあえず引いてみよう ～

調べたい内容のテーマや詳細がはっきりしない場合、用語だけがわかっている場合にまず当たるべきなのが、百科事典です。ご自宅にお持ちの方も多いと思いますが、図書館でならば数種類の百科事典を見比べて、より詳細に情報を確認することができます。まずは、特に条件を考えずに探してみる時に便利な資料、百科事典をご紹介します。

○『日本大百科全書』全26巻 小学館 1984.11～1989.3,1997.9【R031/ニ】

項目は50音順で、項目数は13万項目を超える。本編は24巻までで、25巻は索引。26巻は90年代の情報が加わった補巻となっている。印刷版は現在絶版となっている。項目内容に応じて、用語、術語、作品解説、人物紹介などの囲み記事欄を設けており、写真や図表などを多数収録している。基本は縦4段組みだが、人間の生活・文化の形成に関係の深い事項は、3段組みで詳しく記述されている(アイヌ、雨など)。必要に応じて、解説末尾に参考文献もあり。

○『世界大百科事典』全 31 巻 平凡社 2007.9,2009.6【R031/セカ】

2015 年現在の埼玉県立図書館所蔵の最新版は 2007 年改訂版で、別冊として『日本地図』『世界地図』、統計的な情報を網羅した『百科便覧』(2009.6)もある。項目数は約 9 万項目に及び、項目は 50 音順に排列。カラー図版は美術、動植物、事物の文化史を3つの大きな分野とし、約 8,500 点の写真、図版で構成。

○『ブリタニカ国際大百科事典』全 29 巻 フランク・B. ギブニー／編 TBSブリタニカ 1984.10【R031/グ】

2015 年現在の埼玉県立図書館の最新版は 1984 年改訂版。大項目事典 20 巻と小項目事典 6 巻に分かれ、さらに別巻として『総索引』『参考文献』そして『ブリタニカ・スタディガイド:ブリタニカ国際大百科事典分野別の手引』を備える。

○『オールカラー・6か国語大図典』小学館 2004.7【R030/オル】

項目数こそ 658 と少ないが、各項目について6か国語(日本語・英語・ドイツ語・フランス語・スペイン語・イタリア語)で記述されており、またビジュアル的な説明を重視している点に大きな特徴がある。イラスト中心なので基本的に「モノ」についての事典と言えるが、巻末の索引も各国語ごとになっており、わかりやすい。

○『対訳日本事典』講談社 1998.2【R291.036/タイ】

本文は7分野から成り、英文で日本を紹介し、右にその日本語訳を掲載している。巻末の付録には、日本国憲法や条約、日本史年表など(いずれも英文・日本語併記)を掲載、日本を英語で紹介するのに便利な1冊である。

主題別の事典・辞典で調べる

調べたいできごとの分野やテーマについて集中的にまとめられた辞典類が存在します。ピンポイントで探している情報にたどりつける可能性が高く、自分の目的にあった辞典類を発見できれば非常にラッキーです。なお、時代を区切っていないものと、特定年代に集中して収録したものが混在しますので、必要に応じて使い分けるとよいでしょう。

※今回は、県立熊谷図書館に所蔵している参考図書を中心に紹介します。

○『出版年鑑 平成 27 年版』全 2 巻 出版年鑑編集部／編 出版ニュース社 2015.7【R025.1/シユ】

「資料・名簿」編と「目録・索引」編からなっており、前年に発行された出版物等のリスト・索引と出版関係事項・統計が記載されている。出版情報に関する総合的な情報を調べるために必須の資料にあたる。

○『岩波哲学・思想事典』広松渉／〔ほか〕編集 岩波書店 1998.3【R103.3/イワ】

西洋だけでなく、インド、中国、朝鮮、日本、イスラム圏などの哲学および社会思想、科学思想、宗教思想、芸術理論、文学理論などを含む分野の事項名、人名、書名など約 4,100 項目を 50 音順に排列している。各項目は解説者の署名入りで、参考文献が付されている項目もある。巻末の索引は、重要語、漢字人名、片仮人名、欧文(agape=愛 等)の4種類。

○『心理学辞典』中島義明／〔ほか〕編集 有斐閣 1999.1【R140.33/シン】

心理学の全領域および関連する隣接諸科学の用語・人名を小項目にして 50 音順に排列している。項目数は事項 4,021 項目、人名 347 項目に及ぶ。また、巻末に引用・参考文献および主著を著者のアルファベット順に排列した文献リスト、および索引(和文および欧文の事項および人名索引)が付されている。

○『神道史大辞典』藺田稔／橋本政宣／編 吉川弘文館 2004.7【R170.33/シン】

神話の世界から現代までの、神道を理解するための 4,100 項目を収録。排列は 50 音順で、参考文献の掲載も充実している。巻末には索引のほかに、官国弊社一覧、府県社一覧、終戦前の海外神社一覧、神社統計表、神社規則等の付編が掲載されている。

○『総合仏教大辞典』全 3 巻 法蔵館 1987.11【R180.3/フ】

上下巻および索引・叢書目録を収めた別冊巻の全 3 巻からなる。仏教の総合的理解に不可欠な仏教学・仏教史学について解説。項目は 50 音順で、記述も平易でわかりやすい。多くの項目には参考文献が記されている。索引は和文、欧文のほかに冠字索引があるのが特徴的である。巻末に「仏教主要叢書目録」がある。

○『世界キリスト教百科事典』教文館 1986.10【R190.3/㉔/】

世界各国のキリスト教及び、その宗派の歴史と現勢を多数の統計資料を挙げ解説している事典。また、キリスト教関係団体の活動にも言及している。巻末には、用語辞典、宗教用語(英和)一覧、キリスト教団体名称略語一覧と参考文献が付されている。

○『国史大辞典』全 15 巻 国史大辞典編集委員会／編 吉川弘文館 1979.3～1997.4【R210.03/㉔/】

日本歴史の全領域を網羅し、さらに考古学・人類学・民族学・民俗学・国語学・国文学などの隣接分野にも及ぶ約 42,000 の項目を収録している。排列は、かな見出しのもと 50 音順。解説には書名が添えられ、参考文献も付されている。15 巻は索引巻で上(史料・地名)・中(人名)・下(事項)に分かれている。

○『日本史大事典』全 7 巻 平凡社 1992.11～1994.5【R210.03/㉔/】

項目数は全 7 巻で約 25,000 項目に及ぶ。各項目の内容はかなり充実している。また、各項目に執筆者と必要に応じて参考文献が記されている。7 巻は索引巻だが、50 音索引のみでなく、漢字索引、欧文索引等も備えるほか、資料として「主要叢書一覧」や「官職唐名・異称一覧」がある。

○『世界歴史大事典』全 22 巻 教育出版センター 1986.1【R203.3/㉔/】

本編は 20 巻まで。21 巻が総索引、22 巻が類別索引(人名・地名)となっている。50 音順に排列されており、各項目の情報量は多く、さまざまな写真や図版等がサイズは小さいが多く掲載されている。また、索引が多彩で、見出し項目・事項・ジャンル別(日本史・東洋史・イスラム史・西洋史)・欧文・漢字字画・歴史文化資料索引などを備える。

○『講談社日本人辞典』講談社 2001.12【R281.033/㉔/】

古今の日本人(架空人物を含む)約 6 万 5600 人をかな見出しの読みの 50 音順に登載。各項目は見出し語、生没年と適宜顔写真(白黒)を添えた簡潔な解説からなる。巻末に「日本の姓氏 500」、「歴代内閣一覧」、2000 年までの「文化勲章受章者・文化功労者一覧」などと、難読性・名索引、外国人名アルファベット索引が備えられている。

○『角川日本地名大辞典』全 49 巻 同編集委員会／編 角川書店 1979.4-1990.12【R291.03/㉔/】

都道府県ごとに各巻をあて、それぞれ総説、地名編、地誌編、資料編を設けている。主体である地名編では古代から近代までの地名を網羅的に収録し、その 50 音排列のもとで解説が加えられている。別巻は「日本地名資料集成」「日本地名総覧」で、「日本地名総覧」は総索引、郡支庁・自治体一覧及び難読地名一覧からなる。

○『日本歴史地名大系』全 52 巻 平凡社 1979.9-2005.1【R291.03/㉔/】

土地に根ざした歴史を明確にするために、行政地名、人文地名、自然地名、歴史的建造物や遺構なども採録した各県別歴史地名辞典。項目の排列は時代順で地域ごとになされ、歴史的全体像が次第に明らかになる構成を持つ。第 49 巻は約 40 万項目からなる「総索引」、第 50 巻は「分類索引」である。

○『理科年表 第 88 冊(平成 27 年)』自然科学研究機構国立天文台／編 丸善出版 2014.11【R403.6/㉔/】

暦、天文、物理／化学、地学、生物に関する最新のデータを収録した資料。「年表」と銘打っているが実際は理科項目に関する年度版の最新データブックである。巻末には索引とともに理科に関連する情報(歴代ノーベル賞受賞者、各種数学公式、計量単位の一覧など)もあり、数値データに関しては非常に網羅性が高い。一回りサイズの大きい机上版は県立久喜図書館で所蔵している。

事典・辞典で調べる④収録書誌を調べる

「辞典が多すぎて、どれを探していいかわからない…」「辞典を全部確認してみなければダメなの？」

ご安心ください。図書館には「書誌の書誌」というものがあり、欲しい情報が載っている辞典類にはどのようなものがあるかを先に調べることができます。これらの資料を使い、必要な情報を探す方法を覚えましょう。

○『日本の参考図書』第 4 版 日本図書館協会 2002.9【R028/㉔/㉔/】

1996 年までに国内で刊行された参考図書 7,033 タイトルを収録した、「参考図書を調べる」ための参考図書。内容は日本十進分類法(NDC)にしたがっているため、テーマ別分類の事典と言える。各項目にはその参考図書に関する解

説が付されており、巻末には書名索引と事項索引がある。また、定期的に新しい参考図書を追加する『日本の参考図書 四季版』が刊行されている。

○『日本書誌の書誌』天野敬太郎／編 日外アソシエーツ 1973-81【R025.1/7】

個人あるいは単独機関による独立して刊行された書誌類を中心に収録している。現在は「総載編」「主題編Ⅰ」「主題編Ⅱ」「人物編Ⅰ」が刊行されている。「総載編」は一般書誌を収録。「主題編Ⅰ」は図書館学・歴史・哲学の分野を、「主題編Ⅱ」は芸術、語学、文学の分野を、「人物編Ⅰ」は、それぞれ明治以降 1970 年現在の出版物を収録対象としている。

○『調査研究・参考図書目録』改訂新版 全 2 巻 図書館流通センター 2002.12【R028/チヨ】

「本編」と「索引編」の 2 冊からなり、1987 年から 2002 年 6 月までに国内で出版された参考図書約 23,000 点を NDC に準じて分類排列している。資料のすべてではないが、選択的に解説が付けられており、主要と思われる参考図書には☆印を付している。索引は件名、書名、著者名(欧文著者含む)の 3 種。

○『辞書・事典全情報 2006-2013』日外アソシエーツ 2013.9【R028/ジシ】

2006 年から 2013 年までの 8 年間に国内で出版された辞書・事典 5,620 点を収録している。項目は NDC に準じて分類排列されており、見出し内での排列は 50 音順。資料のすべてではないが、選択的に解説が付けられている。索引は書名および事項名の 2 種。図書館を中心とした調査研究機関向けの参考図書を多数発行している出版者で、『全情報』シリーズとしてその他のテーマについてもいくつもの参考図書リストを発行している。1945-89 年版、1990-1997 年版、1998-2005 年版もあり。

○『「テーマ・内容」で探す本のガイド』東京書籍出版編集部／編 東京書籍 2000.9【R028/テマ】

人物、事件・出来事、文化・技術、生活・趣味、自然の 5 分野に大項目をわけ、それぞれの内容について記載された図書を紹介したもの。必ずしも参考図書ばかりでなく、エッセイ等で必要情報が含まれるものについても採用されているのが特徴。巻末には人物および項目についての索引が付されている。

○『人物レファレンス事典 新訂増補』日外アソシエーツ 1996.9-2007.7【R281.033/ジシ】

「古代・中世・近世編(Ⅰ)」「古代・中世・近世編(Ⅱ)」「明治・大正・昭和(戦前)編」「昭和(戦後)・平成編」の 4 編に分かれ、それぞれ 2 冊構成となっている。収録されている日本人は約 13 万人。各時代に対応する人物が載っている辞典類が、各人名項目ごとに略号で示されており、その資料を見れば該当する人物情報を得ることができる。姉妹編に、『外国人物レファレンス事典』がある。

インターネットで調べる：その情報は正しいの？

インターネットを利用している人ならば、google や YAHOO! といった検索エンジンで該当することがらを検索すれば、ネット上のフリー百科事典 Wikipedia 等で必要な情報を即座に確認することも可能です。しかし、これらの多くは残念ながら内容の正確性を保証するものではなく、これらを検証なしに単純に信用するのは危険です。県立図書館では、調査用に信頼性の高いオンラインデータベースをいくつか導入していますので、より正確な情報が欲しいときのインターネットでの情報検索には、図書館の職員およびデータベースを活用された方が得策です。

県立図書館で導入している主なデータベースの一部：

- ・聞蔵Ⅱビジュアル：朝日新聞社関連の新聞・雑誌、人物データベースが検索できます。
- ・ヨミダス歴史館：創刊号からの読売新聞本版記事の検索・閲覧が可能で、この他に人物検索ができます。
- ・WHOPLUS：人物文献情報「WHO」や、『人物レファレンス事典』『事典近代日本の先駆者』『海を越えた日本人名事典』、図書情報データベース「BOOKPLUS」の著者紹介データなどを横断的に検索することができます。
- ・D1-Law.com：法令、判例が検索できます。また判例の要旨・解説情報や文献情報等の法情報を検索できます。冊子(加除資料、雑誌)で刊行されている『判例体系』、『法律判例文献情報』、『現行法規』のオンライン版です。

※このテキストに挙げられた資料情報のうち、【 】内は請求記号です。資料の紹介は、『日本の参考図書』第4版(前掲)、『レファレンスブックス 選びかた・使いかた』(長澤雅男/石黒祐子/著 日本図書館協会 2013)を参考にしました。